



config コマンド

- [config ap client-trace](#) (2 ページ)
- [config ap client-trace filter](#) (4 ページ)
- [config ap client-trace output](#) (5 ページ)
- [config boot baudrate](#) (6 ページ)
- [config boot break](#) (7 ページ)
- [config boot crashkernel](#) (8 ページ)
- [config boot debug-memory](#) (9 ページ)
- [config boot manual](#) (10 ページ)
- [config boot path](#) (11 ページ)
- [config cts debug enforcement host_ip](#) (12 ページ)
- [config cts debug enforcement rate](#) (13 ページ)
- [config cts debug enforcement permissions](#) (14 ページ)
- [config cts debug enforcement protocol](#) (15 ページ)

config ap client-trace

アクセスポイントにクライアントトレースを設定するには、**configapclient-trace** コマンドを使用します。

```
config ap client-trace {address {add|clear-all|delete}|all-clients {enable|disable}|filter {all
{enable|disable}|arp {enable|disable}|assoc {enable|disable}|auth {enable|disable}|dhcp
{enable|disable}|eap {enable|disable}|icmp {enable|disable}|ndp {enable|disable}|probe
{enable|disable}}|inline-mon {enable|disable}|output console-log|start|stop}
```

構文の説明

addresses	トレースするクライアントを設定する。クライアントのMACアドレスを指定する
add	トレースするクライアントを指定する
clear-all	このアクセスポイント上のすべてのクライアントトレースを削除する
delete	トレースするように設定されているクライアントのアドレスを削除する。クライアントのMACアドレスを使う
all-clients	すべてのクライアントをトレースする
enable	すべてのクライアントのトレースを有効にする
disable	すべてのクライアントのトレースを無効にする
filter	クライアントトレースのためのフィルタを設定する
all	すべてのフィルタをトレースする
arp	ARP パケットをトレースする このフィルタを有効、または無効にするには、 enable または disable キーワードを使用する。
assoc	ASSOC パケットをトレースする
auth	auth パケットをトレースする
dhcp	DHCP パケットをトレースする
eap	EAP パケットをトレースする
icmp	ICMP パケットをトレースする
ndp	NDP パケットをトレースする
probe	プローブ パケットをトレースする
inline-mon	インライン モニタリングを有効または無効にする

output コンソールまたはログファイルへのロギングを有効または無効にする

console-log コンソール ログのキーワードを指定する

start クライアントのトレースを開始する

stop クライアント トラッキングを停止する

コマンドモード Privileged EXEC (#)

コマンド履歴 リリース 変更内容

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、AP でクライアント トレースを開始する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config ap client-trace start
```

config ap client-trace filter

クライアントトレースのフィルタを設定するには、**configapclient-tracefilter** コマンドを使用します。

```
config ap client-trace filter {all[disable | enable] | arp[disable | enable] | assoc[disable | enable] | auth[disable | enable] | dhcp[disable | enable] | eap[disable | enable] | icmp[disable | enable] | ndp[disable | enable] | probe[disable | enable]}
```

構文の説明

all すべてのフィルタをトレースする

arp ARP パケットをトレースする

assoc ASSOC パケットをトレースする

auth auth パケットをトレースする

dhcp DHCP パケットをトレースする

eap EAP パケットをトレースする

icmp ICMP パケットをトレースする

ndp NDP パケットをトレースする

probe プロブ パケットをトレースする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

クライアントトレースのフィルタを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
cisco-wave2-ap# config ap client-trace filter
```

config ap client-trace output

トレースの出力を設定するには、**configapclient-traceoutput** コマンドを使用します。

```
config ap client-trace output console-log {disable | enable}
```

構文の説明

console-log トレースの出力をコンソールとログに表示する

disable コンソールとログへのトレースの出力を無効にする

enable コンソールとログへのトレースの出力を有効にする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、トレースの出力を設定する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config ap client-trace output
```

config boot baudrate

ボー レートを設定するには、**config boot baudrate** コマンドを使用します。

```
config boot baudrate {115200 | 9600}
```

構文の説明	<i>115200</i> ボー レートを 115200 に設定する <i>9600</i> ボー レートを 9600 に設定する
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス 8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ボー レートを 9600 に設定する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config boot baudrate 9600
```

config boot break

ブレイクを有効にするには、**config boot break** コマンドを使用します。

config boot break {**enable** | **disable**}

構文の説明

enable ブートブレイクを有効にする

disable ブートブレイクを無効にする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ブートブレイクを有効にする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config boot break enable
```

config boot crashkernel

カーネルクラッシュを有効または無効にするには、**config boot crashkernel** コマンドを使用します。

config boot crashkernel {enable | disable}

構文の説明

enable カーネルクラッシュを有効にする

disable カーネルクラッシュを無効にする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、カーネルクラッシュを有効にする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config boot crashkernel enable
```


config boot debug-memory

メモリ デバッグを有効にするには、**config boot debug-memory** コマンドを使用します。

config boot debug-memory {enable |disable}

構文の説明

enable メモリ デバッグを有効にする

disable メモリ デバッグを無効にする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、メモリ デバッグを有効にする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config boot debug-memory enable
```

config boot manual

AP のマニュアルブートを有効にするには、**config boot manual** コマンドを使用します。

config boot manual {**enable** | **disable**}

構文の説明

enable マニュアルブートを有効にする

disable マニュアルブートを無効にする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、マニュアルブートを有効にする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config boot manual enable
```

config boot path

ブートパスを設定するには、**config boot path** コマンドを使用します。

config boot path {1 | 2}

構文の説明	{1 2} パート1またはパート2として指定するパス
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス 8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ブートパスを1に設定する例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config boot path 1
```

config cts debug enforcement host_ip

ホスト IP に基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングするには、**config cts debug enforcement host_ip** コマンドを使用します。

```
config cts debug enforcement host_ip {ipv4 dst-ip [src-ip] | ipv6 dst-ip [src-ip]}
```

構文の説明	ipv4 dst-ip [src-ip]	宛先 IP アドレス、またはオプションで送信元 IP アドレスに基づいた、IPv4 SGACL 強制デバッグのみを表示する
	ipv6 dst-ip [src-ip]	宛先 IP アドレス、またはオプションで送信元 IP アドレスに基づいた、IPv6 SGACL 強制デバッグのみを表示する

コマンドモード Privileged EXEC (#)

コマンド履歴 リリリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、ホスト IP に基づいて IPv4 SGACL 強制デバッグをフィルタリングする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config cts debug enforcement host_ip ipv4 209.165.200.224 209.165.200.227
```

config cts debug enforcement rate

デバッグ ログの出力レートを設定するには、**config cts debug enforcement rate** コマンドを使用します。

config cts debug enforcement rate {*X Y*}

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
構文の説明	<p>rate デバッグ ログの出力レートを設定する</p> <p><i>X</i> 処理した <i>Y</i> 個の пакеттごとにデバッグを表示する пакеттの数。有効な範囲は 0 ~ 10000</p> <p><i>Y</i> 処理する пакеттの数。有効な範囲は 0 ~ 10000</p>
コマンド履歴	<p>リリース 変更内容</p> <p>8.1.111.0 このコマンドが導入されました。</p>

例

次に、処理される 500 パケットごとに 100 パケットのデバッグを表示するなど、デバッグ ログの出力レートの設定例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config cts debug enforcement rate 100 500
```

config cts debug enforcement permissions

送信元グループタグ (SGT) および宛先グループタグ (DGT) に基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングするには、**configctsdebugenforcementpermissions** コマンドを使用します。

```
config cts debug enforcement permissions {dgt | sgt} tag-id
```

構文の説明

dgt 宛先グループ タグ

sgt 送信元グループ タグ

tag-id タグ識別子。有効な値は 0～65535

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、ID が 600 の宛先グループ タグに基づいて、SGACL 強制デバッグをフィルタリングする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config cts debug enforcement permissions dgt 600
```

config cts debug enforcement protocol

プロトコルに基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングするには、**configctsdebugenforcementprotocol** コマンドを使用します。

```
config cts debug enforcement protocol {protocol-id | icmp | tcp | udp}
```

構文の説明

protocol-id プロトコル ID。有効な値は 0 ～ 65535

icmp ICMP トラフィックで SGACL 強制デバッグをフィルタリングする

tcp TCP トラフィックで SGACL 強制デバッグをフィルタリングする

udp UDP トラフィックで SGACL 強制デバッグをフィルタリングする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、UDP トラフィックのプロトコルに基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングする例を示します。

```
cisco-wave2-ap# config cts debug enforcement protocol udp
```

